

文学研究科の教育課程編成・実施の方針 (Curriculum Policy ; CP)

成蹊大学は、「学位授与の方針」を踏まえ、次のような方針で教育課程を編成・実施する。

<大学 (学士課程) 共通>

(CP1) 大学共通DPおよび各学科固有DPの各項目の達成、及び学生の自発的かつ能動的な学習の徹底を図るため、各学科の教育課程において8単位以上必修の演習科目を置き、卒業論文(またはこれに代わるもの)の作成を必修とする。

<成蹊教養カリキュラム>

(CP2) 大学共通DPの各項目を達成するために、全学共通の成蹊教養カリキュラムを策定する。カリキュラムとDPの各項目との関係はカリキュラムマップ(付表)によって示す。

(CP2-1) 円滑な高大接続と(DP4)を達成するため、学部1年次前期をプレ・タームとし、学びの動機づけを目的とした科目を配置する。

(CP2-2) (DP4)の確実な達成を目指して、成蹊教養カリキュラム及び各学科のカリキュラムに留学、インターンシップ、ボランティア等の単位認定のしくみを設け、さらに成蹊国際コース等の選抜型の教育プログラムを設置する。

<大学院 (博士前期・後期課程、法務研究科を除く) 共通>

(CP1) (DP1)を達成するため、大学院共通に学際分野に関する科目を置き、全学的な運営を行う。

(CP2) (DP2)～(DP5)を達成するため、すべての研究科において演習科目を必修とし、可能な限り少人数で指導教授による適切な指導を行うものとする。

<文学研究科>

文学研究科(英米文学専攻、日本文学専攻、社会文化論専攻)は、本研究科のDPを踏まえ、次のような方針で教育課程を編成・実施する。

【博士前期課程】

(CP1) 研究コースでは、年次ごとの研究計画に基づいてそれぞれの専門に関わる演習と研究を主として学修する。さらに共通講義科目の履修によって専門分野の知識と研究能力を培い、創造性豊かな優れた研究者として自立するための力を研く。また修士論文の作成に従事しこれを仕上げる過程で、自己の研究の可能性と専門分野における意義を把握しうるセンスを身につける。

(CP2) 総合コースおよび英語教育コースでは、年次ごとの研究計画を進めながら分野横断的な共通科目履修の機会を多く持つことで、専門職業人また広く深い専門的素養を身につけた人材たるにふさわしい能力を培う。「特定課題研究の成果」の作成で自らの関心を研究的に深め、まとまった成果に仕上げる体験をすることで、専門家として社会で活動することの意義を自覚する。

(CP3) いずれのコースにおいても、専門家にふさわしい責任感と倫理感をもって活動する意識を身につける。

【博士後期課程】

(CP1) 博士後期課程では、優れた学識と専門分野における創造性豊かな研究能力や高度な専門職業人として活動するのに必要な広い知的素養を主体的に身につける。

(CP2) 博士論文の提出にむけて定められた業績要件を満たし得る研究を計画的に進めることで、専門家として自立する能力を身につける。

(CP3) いずれの専攻においても、専門家にふさわしい責任感と倫理感をもって活動する意識を身につける。